様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２９ 日現在

機関番号：３２６０６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５２０８７３

研究課題名（和文）近代日本人のみた古都・長安の風景－足立喜六遺品資料を中心に

研究課題名（英文）The modern Japanese and ancient city "Changan"

研究代表者
村松　弘一（MURAMATSU, Koichi）

学習院大学・付置研究所・教授

研究者番号：７０３６５０７１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：100年前、中国の古都・西安に日本人教習として滞在した足立喜六の著書『長安史蹟の研究』には100枚をこえる写真が掲載されている。さらに、近年、足立喜六の親族の所蔵する足立喜六遺品資料が発見された。これまの公刊された資料と足立氏遺品資料を比較・検討し、100年間の西安・中国の文物保護史を考察した。特に、ペンシルバニア博物館所蔵の六駿に注目し、中国人骨董商を介して購入したことなどを示し、20世紀初頭において中国国内の文物保護政策が整備されていなかったこと、海外の中国文物のコレクターや美術館があったこと、グローバルに活躍する骨董商がいたことなどが、中国文物の海外流出につながったと考えた。

研究成果の概要（英文）：100 years ago,Kiroku Adachi, the Japanese teacher who stayed at Xian wrote "study in Changan historical site". The book has an old picture beyond 100. I found Kiroku Adachi Document in recent years. I researched about history of preservation of cultural properties in Xian from previous document and the New Adachi document.In particular, I paid attention to SIX HORSE of Pennsylvania University museum possession.From the following reason,I consider a Chinese cultural asset had moved to foreign countries in the beginning in the 20th century.(1) a Chinese preservation of cultural properties policy wasn't provided with.(2) there were a lot of collectors and museums of a Chinese cultural asset in world.(3) there was an antiquary Broker who plays an active part globally

研究分野：東洋史

キーワード：中国史　長安

１．研究開始当初の背景
いまから約 100 年前、一人の日本人が中国の古都・西安に教習としてやってきた。足立喜六である。彼は帰国後、『長安史蹟の研究』を刊行した。本書には 100 枚をこえる 100 年前の西安の写真が掲載されている。この写真と現在の町並みを同じアングルから撮影し、100 年間で遺跡・文物がどう変化したか。保護されたか、されなかったのかを調査する。これとともに、近年、足立喜六の親族の所蔵する足立喜六遺品資料が発見された。これまの公刊された資料と足立氏遺品資料を比較・検討し、西安そして中国の文物の 100 年間の保護史を考えてみたい。

２．研究の目的
　本研究の目的は、『長安史蹟の研究』の著者である足立喜六氏の孫・鶴田温子氏が所蔵している 100 年前の西安の未公開写真を整理・データベース化し、その資料を軸として、近代から現代までの古都・西安における遺跡・文物保護の観念の変化を研究することである。研究の過程においては、近代の西京籌備委員会や西北文物考察団の写真資料やペンシルバニア大学博物館等の海外流出文物の資料調査などをおこなう。最終年度には、本研究の成果を注釈として附した『長安史蹟の研究』（文庫版）を復刻刊行する。さらに、古写真等を展示品とした展覧会や写真集などを刊行し、研究成果を市民へと発信したい。本研究で、明らかにしたい課題は以下の３点である。
（１）新たに発見された足立喜六遺品資料にはどのような資料があるのか。
－データベースの作成と写真のデジタル化。新たに発見された鶴田温子氏所蔵の足立喜六遺品資料を整理し、データベースを作成する。古写真はデジタル化し、撮影地・撮影文物を他の関連写真と比較しつつ解明する。
（２）足立喜六遺品写真は西安のどこを写したものか。現在、それはどう変わっているのか。
－足立喜六遺品古写真と同じアングルの現在の写真を撮影する。新旧の写真を比較し、当該遺跡が保護されているか、どのように変化しているのか。
（３）西安の遺跡はこの 100 年でどう変化したのか、その要因はなにか。
－遺跡跡変化の要因について資料を調査。博物館の開設であれば西安の档案資料、海外に流出した文物であれば、国外のアーカイブズや博物館における骨董商との売買信書の調査等。

３．研究の方法
以下のような方法で研究をすすめた。
（１）足立喜六遺品資料のデジタル化およびデータ整理－-鶴田温子氏所蔵の足立喜六遺品資料のうち、古写真および拓本資料に関するデータベースを作成する。
（２）西安古写真の収集と比較－足立喜六遺品資料中の古写真の被写体となっている遺跡・文物を比定する。確定作業に際しては若手研究にて収集・整理した西安古写真データベースを利用する。このデータベースには『長安史蹟の研究』・『考史遊記』（桑原隲蔵著、61 枚）・『中国文明記』（宇野哲人）、『西安旧事』（50 枚）・『古都滄桑』（236 枚）、東京国立博物館蔵早崎梗吉撮影写真などがおさめられている。これらの関連写真との比較検討し、撮影場所の確定が可能である。
（３）古写真撮影現場の現状の調査－上記で比定した遺跡の現在の状況について調査するため、中国・西安等を訪問し、同じアングルから撮影し、100 年の文物保護の変化について調べる。多く残されている唐代陵墓を重点的に調査する
（４）上海図書館所蔵・西安市档案館所蔵古写真・西北大学所蔵王子雲古写真資料の調査－1910 年の足立写真、1930 年代の西京籌備委員会の写真、1940 年代の王子雲写真を比較することによって、遺跡保護の変化の過程を知ることができる。
（５）海外流出文物に関する調査
－足立氏の写真にはすでに中国から海外に持ち出されてしまった文物のものがある。それらが現在どう保管されているのか、それを受け入れた時の経緯はどうであったのかを調べるために海外の機関を調査する。唐太宗の「六駿」を有するペンシルバニア大学博物館資料や骨董商 C.T.LOO 関係資料について調査する。

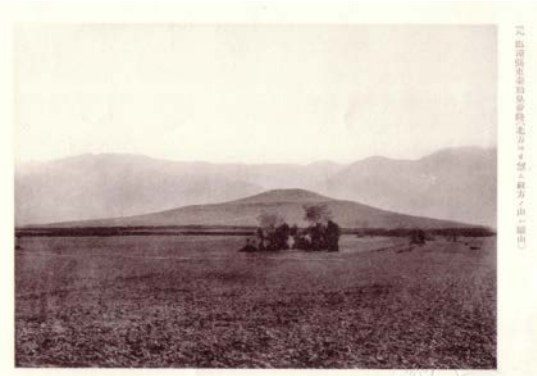
４．研究成果
（１）新たに発見された足立喜六遺品資料について。
　鶴田温子氏所蔵の足立喜六遺品資料には以下の資料がある。
・仏国記抄本（足立氏の書き込みあり）
・古写真・ガラス乾板
　足立氏肖像　足立氏西安住居前
　仏像・唐三彩・順陵・崇陵石刻・碑林内・景雲鐘・大雁塔内・剣と青銅器・草堂寺舎利塔・大秦景教流行中国碑・覇陵・銅鏡・阿房宮・昭陵六駿
・拓本　「大秦景教流行中国碑」　墓誌銘等
・地図　陝西省城図・陝西省図・河南省図
・足立氏顕彰関係　履歴書、大礼記念之証、叙勲（勲六等瑞宝章）、『長安史蹟の研究』献上の証
などがある。このうち、『仏国記抄本』はすでに出版されている法顕伝などで著名な足立氏の未刊の注釈書と言える。また、写真のなかには『長安史蹟の研究』に使われているもの、使われていないものがある。六駿の写真は『長安史蹟の研究』にもあるように、足立氏が訪れた時にはあいにくの降雪で、撮影された写真は雪が残ったものであった。そのため、足立氏は出版にあたり自ら撮影したも

のではなく、シャバンヌの書籍から転載したのではないかと推測できる。また、足立氏の西安住居前の写真はこれまで公開されていないものであり、大変貴重なものである。

（２）西安古写真資料データベース化と活用

上記の写真との比較のため、陝西省・西安市などの古写真のデータベース化をおこなった。この作業にあたっては、別途、JSPS の外国人招聘事業にて招聘した陝西師範大学の史紅帥氏の現地での調査による画像資料も合わせてデータの整理をおこなうことができた。エクセルと画像資料の対応データベースによって約 1000 枚のデータ化をおこなった。これらと関連して、学習院大学に残された中国に関する絵葉書のデータを調査したが、西安の写真はなかった。また、西安の絵葉書資料については他機関にも所蔵はない。絵葉書の発行されている都市は戦前に日本の占領下におかれた朝鮮・台湾・満洲および北平・青島などに集中している。西安の絵葉書が見られないことは、日本軍の侵攻を免れたことと関係していると考えられる。今後、絵葉書資料の作成についても検討がなされるべきであろう。

また、古写真の周辺分野の研究への活用として、『宇宙と地下からのメッセージ―秦の始皇帝陵の自然環境』のなかの「古写真からみた始皇帝陵」の章にて、足立喜六撮影の秦の始皇帝陵の写真を現代の始皇帝陵の写真と比較し、特に、足立の写真では陵墓の四角錐の辺が二段階に屈折していることが確認でき、そのことと、始皇帝陵の地下宮殿の構造が関係あるのではないかという仮説も示した。



なお関連する成果として、学習院大学所蔵の古写真・絵葉書資料については、『アジアを観る―学習院大学所蔵古写真・絵葉書・ガラス乾板』を刊行した。本書では本研究の方法を活用し、古写真と同じアングルから現代の街を撮影し、遺跡の保存状況を比較するという手法を用いている。また、デジタル化された画像資料はバーチャルミュージアムとして比較研究に活用できるようになっている。

（３）西安・中国の 100 年の変化と文物保護

足立喜六が西安に滞在して現在までの 100 年間で中国の文物保護がどのように行われてきたかについて研究をすすめた。以前、公表した「西安の近代と文物事業－西京籌備委員会を中心に－」（『近代中国の地域像』（山本英史編）、山川出版、2011 年 12 月）では、西安における文物保護が複数の機関によっておこなわれており、そのことが外国人による文物流出へとつながったと論じた。これを受けて、本研究では「引き裂かれた唐昭陵「六駿」－ペンシルバニア大学アーカイブズ資料から」（『世界の蒐集－アジアをめぐる博物館・博覧会・海外旅行』）を出版した。米国のペンシルバニア大学博物館にある唐の昭陵の六駿（６つの馬のレリーフ）のうちの２点は、米国人によって持ち去られたとこれまで言われてきた。しかし、近年、ペンシルバニア大学博物館アーカイブズで、六駿を購入する際のやりとりが記された骨董商と博物館長の手紙が発見された。これによってレリーフは中国人骨董商の手を経て、メトロポリタン博物館の倉庫からフィラデルフィアに運ばれ、数年の時間をかけて、博物館が購入したことがわかった。この骨董商は C.T ルー（盧芹齋）という浙江省出身の中国人である。彼は 19 世紀後半からパリやニューヨークに支店を持ち、世界的に活躍していた骨董商である。ペンシルバニア博物館の資料によれば、資金面からなかなか購入を決断できない博物館長に対して、ルーは大英博物館やフランスのギメ東洋博物館から購入の依頼があり、購入しないならば転売するというやりとりが残されている。世界をまたにかけたグローバルビジネスを展開していたのである。

C.T ルーはパリに滞在していた細川護立にも美術品を売却しており、それらは永青文庫

に保管されている。そのようなつながりから永青文庫・東洋文庫・学習院大学の三館連携特別展覧会『東洋学の歩いた道』を開催した（入場者１万人）。展覧会では細川護立収集の中国文物（国宝・重要文化財を含む）が展示された。C.T ルーについては 2014 年にフランス語・中国語（台湾）で相次いで『盧芹齋伝』が出版され脚光を浴びている。また、フランスの詩人で中国各地を訪問し、西安の古写真を残しているヴィクトル・セガレンに関する伝記の邦訳も出版されるなど近代の中国とヨーロッパをめぐる文物・古写真研究は新たな展開を迎えつつある。

また、「近代日中交流史のなかの「学習院」－人・文物・書籍」および「アジアを学ぶ－近代学習院の教育 ～人と人とのかかわりから～」の報告では、本研究と関連して、旧制学習院歴史地理標本室に中国・朝鮮に関する骨董品を教材として販売した骨董商・江藤濤雄について調査をすすめた。彼は西安付近に居住し、薬草販売のかたわら中国の文物を海外に販売していた。辛亥革命が発生した時にはすでに天津に滞在していたことが外務省資料からわかっているが、動向の全貌はわからない。江藤は学習院のほかに中村不折や東京帝国大学考古学研究室などに石碑や青銅器などを販売していたようである。

このように 19 世紀末から 20 世紀初頭、多くの文物が中国大陸から海外へと移動した。これは、中国国内の文物保護のガバナンスの統制がとれていなかったこと、海外の中国文物のコレクター・美術館が多く存在していたこと、そして、その間で文物を売買する骨董商が活躍できる状況であったことなどの諸要素がその時代に整っていたことを指摘したい。

なお、海外流出文物の返還は政治的にも重要な事項と考えられており、最も早く返還してもらわないとならない文物は前述の六駿であると中国の学者は訴えている。また、台湾の故宮博物院では海外流失文物データベース（館内のみ）にて詳しい情報を得ることができる。文物の返還問題は今後も続くグローバルな課題と言えるだろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
村松弘一「アジアを学ぶ－近代学習院の教育 ～人と人とのかかわりから～」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』１号、学習院大学国際研究教育機構、2015 年

村松弘一「陝西省関中三渠をめぐる古代・近代そして現在」『中国乾燥地の環境と開発－自然、生業と環境保全』（北川秀樹編）、成文堂、2015 年

〔学会発表〕（計５件）
村松弘一「黄土高原の履歴書－富平、三原、周至における人と環境の歴史」龍谷大学社会科学研究所講演会（2011 年 7 月）龍谷大学

村松弘一「明治－昭和前期、学習院の中国人留学生－学習院アーカイブズ所蔵資料から」辛亥革命 100 周年記念特別講演会「近代日中教育交流をめぐって」.（2011 年 10 月 24 日）. 学習院大学

村松弘一「近代日中交流史のなかの「学習院」－人・文物・書籍」
香港中文大学日本研究学科講演会(招待講演)(2012 年 3 月 6 日). 香港中文大学

村松弘一「引き裂かれた唐昭陵「六駿」－ペンシルバニア大学アーカイブズ資料から」国際シンポジウム「見せるアジア、見られるアジア－近代国家と博物館・博覧会」.（2012 年１月２８日）. 学習院大学

村松弘一「アジアを学ぶ－近代学習院の教育 ～人と人とのかかわりから～」学習院大学史料館(史料館講座、2013 年 10 月）(招待講演). 学習院創立百周年記念会館正堂

〔図書〕（計５件）
村松弘一ほか共著『百聞ハ一見ニ如カズ－旧制学習院歴史地理標本室移管資料』（共著書、学習院大学史料館編）、学習院大学史料館、2013 年 3 月

村松弘一・伊藤真実子編著『世界の蒐集－アジアをめぐる博物館・博覧会・海外旅行』 山川出版社. 359 ページ（2013）

村松弘一ほか共著『東洋学の歩いた道』学習院大学. 150 ページ（2013）

村松弘一（共著）『宇宙と地下からのメッセージ　秦の始皇帝陵の自然環境』Ｄ－ＣＯＤＥ. 110 ページ（2013）

村松弘一ほか共著『アジアを観る―学習院大学所蔵古写真・絵葉書・ガラス乾板』（学習院大学国際研究教育機構編）、学習院大学、2015 年 3 月

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
なし

６．研究組織

(1)研究代表者

村松　弘一（Muramatsu Koichi）

学習院大学

国際研究教育機構教授

研究者番号：70365071